

する。

2) Landolt 環の開きのはっきりわかる点と、開きがどうかわかる点の差は視力のよいほど大きい。

3) 物の見え方は照度の上昇に伴い増加する。ただし数百ルクス以上数千ルクスの間で視力が増加する。

4) 背景ならびに視標の明るさも見え方に関係が深く両者の対比が大きいほど見え方がよい。

B—91 順応光束発散度と視力の関係

岐阜大教育 中野みち茂
私立富田女高 ○沢田 順子

1. 照明の目的は、物の見やすい状態をつくることにある。照明と眼の関係については、多方面から研究がなされているが、第1報においてすでに形の見え方が照明距離といかなる関係にあるかについて報告したので今回は、さらに形の見え方が照明、視力によってどのように変化するかについて実験を行なったので報告する。

2. 被験者は暗室に入り眼が各実験照度に十分順応した後実験にかかる。視標からの最大観察距離は5メートルとする。視標は2.0のLandolt環、視標面の照度は0.1~2000ルクスまで18段階とする。被験者の視力は0.2, 0.4, 0.9, 1.5背景は白色と黒色、光源はタングステン電球。

3. 1) 高照度における視力増加は、視力がよいほど大きく、低照度においては視力に関係なく見え方が低下